

2-0 ネクサスとは？

「ネクサス」という語はみなさんにはあまりなじみのないものだと思います。これは、デンマークのオットー・イエスペルセン (Otto Jespersen) という英文法学者がその著書 (*Essentials of English Grammar* など) で用いた用語です。彼はおよそ次のように説明しています：

「a) the red door; the barking dog と b) The door is red/The dog barks との2種の語群を比較すると、a) はなんとなく固定的で事物を明確な特殊化した表象として呈示しているのに対し、b) のほうは2個の明瞭な観念 (doorとred; dogとbarks) を動詞で関係させて、我々に何かを物語っているような感じである。たとえてみれば、a) は一幅の絵のような感じであり、b) はあたかも眼前に展開する劇のような趣がある。また、a) においては、doorとred、dogとbarkingが修飾語と被修飾語の関係にあるのに対して、b) においてはdoorと (is) red、dogとbarksは主語と述語の関係になっている。このような場合、a) を「接続」(Junction)、b) を「ネクサス」(Nexus) という。

上のb) The door is red/The dog barks においては、ネクサスが完全な1つの文の形式を整えているが、ネクサスは文の一部として用いられる場合もある」(太字は著者)

ひとことで言えば「主語と述語の関係(ネクサス)は完全な文としてだけでなく、文の一部としても現れる」ということです。では、この「ネクサス」は英語学習においてどのように役立つのでしょうか。次の項から具体的かつ詳細に見ていくことにします。

2-1 ネクサスのしくみ

第1章(1-5-2)で少しふれましたが、〈所有格+抽象名詞〉が意味の上で、〈主語+述語〉になることがあります。

(1) **The boy's wisdom** astonished the villagers.

「その子が賢かったので村人たちは驚いた」

(2) **Her appearance** delighted them.

「彼女が姿を見せたので[見せたとき]彼らは喜んだ」

抽象名詞(☞1-4-2)にはほかの名詞にはない特徴があります。たとえば、kindness, wisdom といえば、誰かが being kind, being wise であると考えられます。また、appearance, arrival といえば、誰かが appeared [will appear], arrived [will arrive] と考えられます。したがって、これらの抽象名詞には主語が内に含まれていると論理的に想定できます。上の例文を次のように書き換えてみると、〈主語+述語〉の関係がより明らかになるでしょう。

(1) The villagers were astonished **because the boy was wise**.

(2) They were delighted **because [when] she appeared**.

このように、〈所有格+抽象名詞〉が意味の上で〈主語+述語〉の関係にあるとき、それを「ネクサス」(Nexus) と呼ぶことがあります。これは「名詞構文」と呼ばれることもありますが、本書ではネクサスという語を用います。ネクサスになるものには〈所有格+抽象名詞〉のほかにもたくさんあります。

2-2 ネクサスのいろいろ

いろいろなものが、実はネクサスの構造を秘めています。次の文の太字体の部分はいずれもネクサスです。

(I) 〈SVOC〉の文型のOCになっているもの

- a. I found **the cage empty**.
「鳥かごは空だった」
- b. We think **this a great shame**.
「これはとても残念だと思う」
- c. They called **him James**.
「彼らは彼をジェームズと呼んだ」
- d. I heard **the dog bark**.
「その犬が吠えたのを聞いた」
- e. He felt **his hands tremble**.
「彼は両手が震えるのを感じた」
- f. They firmly believed **him to be innocent**.
「彼らは彼が無実だと固く信じていた」

(II) 分詞構文その他

- a. **Weather permitting**, we will start on Monday.
「天候が許せば私たちは月曜日に出発します」
- b. **There being no taxi**, we had to walk.
「タクシーがなかったので私たちは歩かねばならなかった」
- c. Don't speak **with your mouth full**.
「口にものをほおぼってしゃべるな」

- d. What a lonely world it will be **with her away!**
「彼女がいなくなったらこの世は何と寂しいものになることか」
- e. I waited for **you to come**.
「私はあなたが来るのを待った」
- f. **The dog's barking** was heard.
「その犬の吠える声が聞こえた」
- g. I waited for **his arrival**.
「私は彼の到着を待った」

ネクサスには、文に直すと主語に相当する部分と述語に相当する部分があることが、上の例からわかるでしょう。

念のために (I) (II) のネクサス (太字体部分) を文の形にしておきましょう。

- (I) a'. the cage was empty
b'. this is a great shame
c'. he was James
d'. the dog barked
e'. his hands trembled
f'. he was innocent
- (II) a'. weather permits
b'. there was no taxi
c'. your mouth is full
d'. she is away
e'. you came [would come]
f'. the dog was barking
g'. he arrived [would arrive]